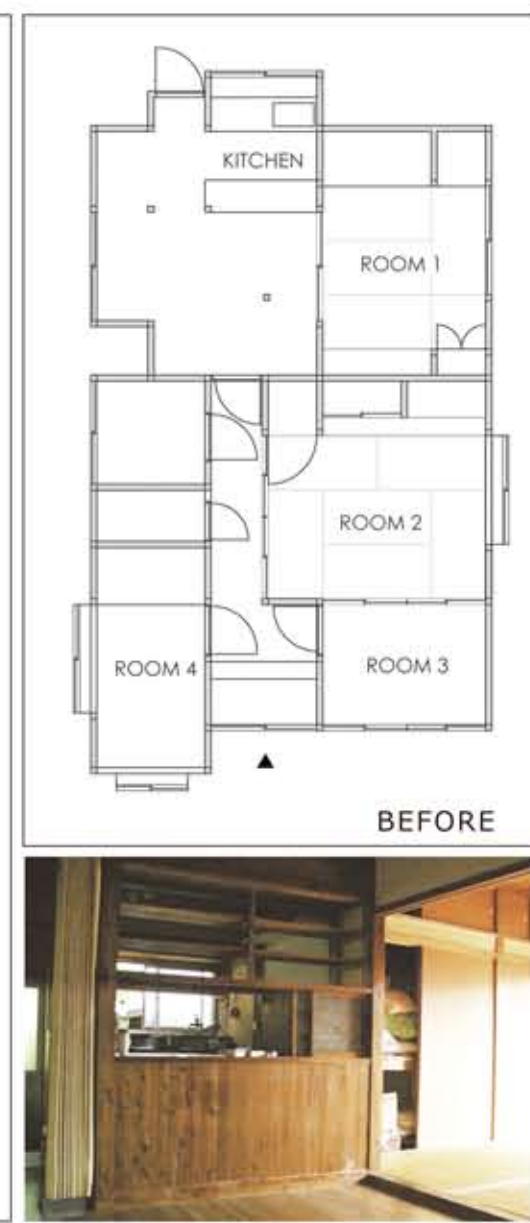
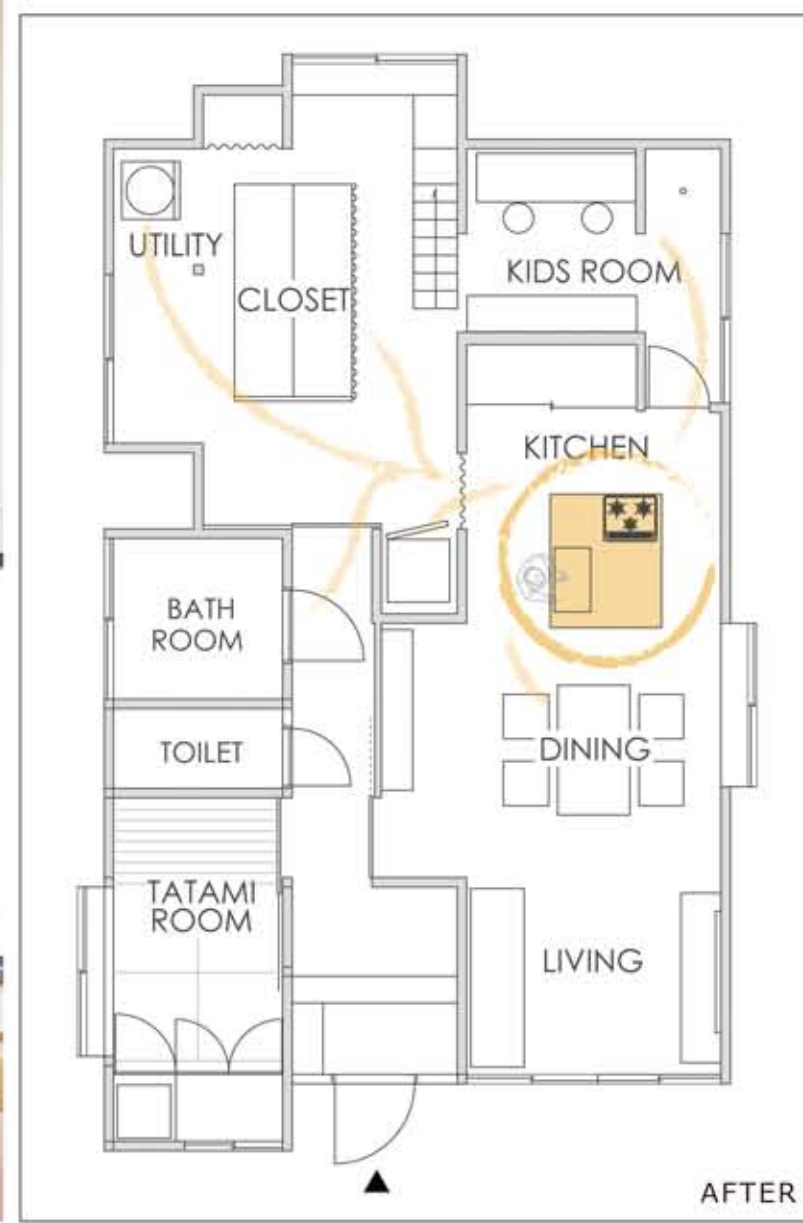


# 家族が囲う「スクエアキッチン」

B:暮らしが変わるキッチン空間



## CONCEPT

家の中心にスクエア型のキッチンを配置することで回遊性をもたせ「家事動線」と「家族の動線」を繋げることを可能にした。それまで家の隅にあったせいで孤立していた「台所」でお母さんはひとりぼっちだったが、家事も子育てもしやすく家族の存在を近くに感じることができる「家族が囲う」キッチンになった。

## KITCHEN

家の動線の中央に配置することでその存在が浮かないように、キッチン本体は床と同素材で脚付きの家具調にし、食器棚の建具も同素材の突板に、またセンターフードは壁と同色とした。天板はキッチン本体とのコントラストを極力抑えた色の樹脂モルタルにすることで「設備ぼさ」を抑え、仕上がりも手仕事の柔らかな印象にした。

## DIAGRAM

元は日当たりの悪い半独立型の台所で、お母さんはひとりぼっちで料理をしていた。独立したキッチンは子どものいる家では不向きで、目の届く範囲内で済ませようとし他の部屋が物置になっていた。そこで、キッチンを中心に間取りを考え、「冷蔵庫、パントリー、ランドリースペース、クローゼット、勉強部屋」にすぐアクセスできるようにした。更にはロフトの小窓にも繋がっており平面だけでなく立体的にも「キッチンを囲み」お互いの存在を確認しやすくしたことで、自然と家族が家事に参加しやすい空間になっている。



スクエアにすることでみんなで囲う時も顔を合わせながら作業ができ、家族参加型のしやすいのキッチンとなっている。

生活感が出ないよう、冷蔵庫は壁を挟んだバックヤードに配置し食器収納は建具でいつでも隠せる。

家族が囲う一工夫として収納内に「お菓子スペース」など、家族のモノを入れるスペースを確保している。

行き届きにくいキッチン台の際もお掃除ロボットが入る高さにし、家事の負担を減らしている。